

質疑応答

中田（公立大学協会）：やり方などではないのですが、「目的」という言葉です。我々が認証評価などに取り組むときには、「大学の目的」ということで使います。講義の中での「目的」というのは、様々なプロジェクトやアクションの「目的」ということで、矛盾はないのですが、例えば、このようなツールを我々も普及させていこうとする場合に、「目的」というと「大学の目的」というようなものが協調されているので、ツールのほうでは「目標」のほうがよいと思いました。「目的」は少し抽象的に感じました。

田中：「目標」ならよいが「目的」では、違和感がある、ということですか。

中田：ツールの中でしたら、違和感や矛盾はないのですが。

田中：認証評価でお使いの用語での「目的」と、このツールの中での「目的」が違う、ということでしょうか。そこは使いやすいように使っていただく、というのが一番いいと思うのです。ですから、その大学さんとか、認証評価機関も5つあるわけで、そこで使っている言葉も微妙に違うじゃないですか。大事なのは考え方、コンセプトなので、そこが「目標」のほうが、じっくりくるのであれば、その言葉に置き換えていただいても、この系図の考え方をさえ合っていれば大丈夫だと思います。

中田：概ね、私もそういう理解でしたのですが、ちょっと戸惑ったということで。あともう1点なのですが、ナンバーを振るところで、細かいことなのかもしれませんが、7のところに入ったときに、1、2、3、4、5、6と来て、7-1、7-2は分かるのですが、次の枠に行くと、なぜ8に行かないのかな、と思いました。なぜでしょう。

田中：鋭いのですが、これは昨日も私たち、これを直さねば、と思っているのですが、このナンバリングは非常に重要になってきます。つまり最後の表にあるように、どの指標、どのデータが、どの目的と結びついているかを紐付けるためにナンバリングしているんですよ。これ、実は試行錯誤しています。今、一番上から降りてきていますけど、例えば、中心課題を1にした方がやりやすいんじゃないか、ということで、枝番の振り方含めて試行錯誤しておりますので、2月のステップ3の講習までの宿題とさせていただきます。もしかすると8にした方がいいのかもしれませんが、もう少し規則性を持たせたいな、と思っております。

松岡（新潟大学）：考え方はものすごく論理的で分かりやすいのですが、スライド11で課題解決から始める、とのことですが、これは実現可能性を重視していくと、こうなると思うのですが、大学としての理想やそちらの方から考えていったときに、どの辺で折り合いを付ければよいのか、というようなところが少し悩ましいと感じました。

田中：これはBSC（Balanced ScoreCard）なんかもそうなんですけど、大きな建学の精神のようなものから引っ張ってくるのは、結構、やりにくいです。そういう意味ではこのツールの限界でもあります。つまり、できる限り自分の身の周りのところからロジックが飛ばないように課題を考えて、そこから目的を設定しよう、ということなので、ある程度中期計画とかですね、あるいは中期計画の中での問題が分かっているようなときに、これをお使いになって、むしろ大きなビジョンとか戦略目標みたいなものと、この方法よりは、世の中の趨勢がどうなっているのかを見るためのEnvironmental Scanのようなものがありますけど、そういったものを使ってディスカッションしたり、有識者の方たちと考える

ビジョンを確定する方が向いていると思います。そこはこのツールの限界なので、ほかのものと組み合わせた方がよいと思います。